

第4号 2023年3月11日発行 編集・発行 カリタスみちのく **〒**987-0901

宮城県登米市東和町米川字町裏84 E-mail:cmichinoku@gmail.com



コクガン

その時 立ち上がることができるように、ともに

東日本大震災と福島第一原発事故から12年が経ちました。犠牲になられた方、今も困難とともにおられる方のために祈ります。2月6日、トルコ、シリアでマグニ チュード 7.8 の大地震が発生しました。5 万人以上の方が亡くなり、倒壊した建物は20万棟、1400 万人が住まいを失いました。被災地の様子が報道されるたび に、12年前の寒さ、不安、悲しさがよみがえってくるという方も多いことと思います。募金や支援物資を送ろうという活動が各地で行われています。被災された 方々が一日も早く安心できる暮らしに戻ることができますように、現地で懸命な支援活動にあたっておられる方々が守られますようにと祈ります。

災害が起こるたびに、湧き上がる「他人ごとと思えない」「次は、私の住んでいるところが被災地になるかもしれない」という思い。大震災を経験した私たちが、次 にまた何かが起こった時に、何ができるでしょうか。この 12 年の間に、私たちは自分の力の小ささを知っています。そして人とつながることで、力を得られること も知っています。いざという時に、立ち上がることができるように、その時まで、立ち上がる力をつけることができるように、カリタスみちのくはこれからも全国の 皆様とつながりを続けていきます。



「おこしやす」



大阪府 閑歳 真紀子

東日本の震災からコロナ禍になる前までに数回、大船渡のベースでボランティ アをさせていただきました。いろんな方と出会い、さまざまなことを学ばせていた だきました。旅行して未知の土地に行くのも楽しいですが、約1週間も滞在する と、何だかその土地に住んでいるかのような、故郷のような気分に浸りました。阪 神大震災では身近に被災地があり、私自身も多少の被害に遭いました。そして神 戸でボランティアをさせていただきましたが、長期の滞在ではなかったのです。

大船渡で特にこれは良い!と感じたのが「お茶っこ」です。関西にはないこの言 葉。想像はつくけれど、どうするの?と慣れないながらも「はまる」。震災、津波で 日常生活は変わってしまっても、変わらないことがあって、ベースにはいろんな 方が立ち寄ってお茶を飲みながらまったりとした時間を過ごされます。とても良 い時間。もし、また自分の地元が被災地になった時、私たちにはこんな風にでき るのか?とぼんやり考えていました。

ところが、地震ではないけれど、コロナ禍。当初は人に会うな、話をするな、家 にいろと言われ、これは災害だと思いました。私でさえ気力を失って生きる意味 を見失いそうになりました。ましてや高齢の方たちは、お元気にしているか確認し に行くと、「確認よりもしゃべる場所作ってほしい!」とおっしゃいます。しゃべる 場所、情報交換する場所は大切、居場所作りは町内では若輩者の私たちの使命と なりました。

昨年秋、ようやく町内のお茶っこが実現しました。サロン名は「おこしやす」です。



11月から月に1回、2時間の開催ですが、町内の会館を使い、今までに3回 実施しました。初めて会う方もおられるので、自己紹介、自分で名札作り、軽い 体操、お茶飲み、おしゃべりをベースにして、11 月は歌を歌い、輪投げをしまし た。12 月はクリスマスらしい BGM を使い、紙コップのミニ三角帽子のリレーを しました。1月は手作り福笑いで和やかに。2月は参加者が折り紙を教えてくだ さるそうです。

多くの参加者が自主的に動いてくださるにはもう少し時間がかかりそうです が、楽しんでくださっているようです。



カリタスみやこ 12年目の 3・11

カリタスみやこ 伊藤 純子



2022年8月 宮古市・浄土ヶ浜

今年の3月11日にも、宮古教会では追悼ミサが捧げられることになりました。 震災直後から宮古方面の支援活動をしてくださった北海道・札幌教区の上杉昌 弘神父様が、お忙しい中、司式してくださることになりました。コロナ禍で交流も 中断された状況でしたが、今年は何とか少しずつですが復活できそうです。

カリタスみやこの活動は、10年目の活動とほとんど変わっていません。

「自分たちが出来ることを無理しない程度で進めていく」の継続形で、進歩も見 えない。利用者が十分満足しているという反応を実感できていないし、すごい充 実感も味わうことなく、ただ続けている活動! なぜ、新しいことに挑戦しないの か? 震災の被災者の意識の変化も感じますし、各地で起きているさまざまな災 害による被災者が増えている現状を見ると、どこまで続ければいいのか?との疑 問も浮かびます。でも、私は被災者だ!という意識は皆いつまでも持ち続けてい ますし、そういう人々に寄り添うことの難しさを感じています。忘れられることの 寂しさ、悲しさも分かるから、絶対忘れることはないのですが、いつまで、どの程 度までかと判断は迷うところです。

くださる物は何でももらうという意識は、震災直後とはだいぶ変わったと思いますが、「いただいて当然!」の意識が抜けない方々もいて、平等な配分を主張して不満を言う人もいないわけではありません。 逆に、支援する私たちの仲間の中には、「全被災者に平等に!」と今も言い続ける方もいますから、本当に難しいことだと思います。

そんな状況下、私たちの活動の中で、クリスマス時に災害公営住宅の住人に手作りのクリスマスプレゼントの配布をしましたが、3年続けてお届けしている方々は疑うことなく喜んで受け取ってくれました。神様の愛を受け取ってくださった



と、こちらも嬉しくなりました。個別 訪問は次第に難しくなってきていま すから、押し付けではなく、人と対 面するこんなチャンスはめったにな いと思います。

「被災者支援」というより、神様の 愛を届ける「宣教」という、私たちの 意識の変化です! カリタス活動を 地道に続けていきたいと思います。

今も新しい出会いがあります

カリタス釜石 道又 譲

ふいりあの年末年始は感染対策のためしばらくお休みをいただきました。

寂しい日が続きましたが小さなクリス マス会を開くことができ、皆さんも笑顔 でいっぱいになることができました!

年が明けてからは午前だけの活動で すが、皆さんふいりあの雰囲気を楽しん でいます。



東日本大震災からもうすぐ 12 年を迎えます。ふいりあは今も「はじめまして」があります。これからも地域の憩いの場として皆様のお越しをお待ちしております。



「集まり始めています」

カリタス大船渡ベース 菅原 圭一

2月に入り立春が過ぎてすぐ、お雛様飾りを出しました。ベースの中がぱっと華やかになりました。コロナ禍の3年が過ぎ、感染対策も上手になってきて、皆さん少しずつ集まりを持ちたくなってきました。週に1度開催している定例の「手芸サ

ロン」のほかにも、顔なじ みの方々で楽しくおしゃべ りしながら手芸をしたいと いう方々が集まってきて います。今、大船渡ベース は手芸とスマホ相談室が 大盛況です。早く以前のよ うに「みんなでお昼ごは ん」などの集まりが出来る ようになればいいなぁと 思っています。



あの頃の子どもたち

一般社団法人カリタス南三陸 千葉 道生

12年前、避難所や仮設住宅で一緒に遊んできた子どもたちは社会人や大学生、高校生になり仕事や部活や趣味に励んでいる。久しぶりに会うと敬語を使われるのがこそばゆいが、少し話すとすぐに友だち言葉で話してくれる。あの時小さな子どもだった自分たちを目一杯受け入れてくれた優しいボランティアさんたちとの触れ合いを思い出しているのか、少し恥ずかしそうに笑っている姿がとても可愛らしい。そして今年は仙台教区の青年会が米川に巡礼に来て殉教地の整備のボランティアをしてくれた。やはり一緒に活動をすると仲良くなるのも早い。神学生の頃に何度も南三陸にボランティアに来てくれた方が、今は神父になり仙台教区の青年担当になっているのも不思議な縁だ。すべては御手の中にあるような気持ちにもなるが約12年間、私の被災地での活動を陰ながら支えてくれた両親は小さな子どもだった頃の私をいつも思い出しているのだろう。



神学生時代にベースで活動していたラファエル神父様(グアダルペ宣教会)と青年たち

たくさんの思いを背負って

カリタスみちのく 世話人 濱山 麻子

カリタス石巻ベースでは、2023年になってから素敵な音楽を楽しむイベントが続いています。2月1日、4年ぶりに「すすきだ音楽隊」のコンサートが行われました。ヴァイオリニストの薄田真さん、打楽器奏者のすすきだ真樹さんご夫妻が演奏家仲間とともに、コロナ禍前は、年に1~2回「東北援奏ツアー」として東北の被災地を回ってくださっていました。コロナに阻まれてツアーがかなわなかった間はビデオメッセージで、演奏と被災地で出会った方々へのメッセージを届けてくださっていたのです。今回は薄田さんご夫妻と一緒に、チェロの高橋よしのさんが初めて参加されました。



4年ぶりの演奏会には、おなじみの利用者さんたち、石巻教会の信徒の方々も集まり、開演前から再会を喜ぶ笑顔がいっぱいでした。最初の 1 曲は亡くなった方への鎮魂として「G 線上のアリア」。曲の間に薄田さんが、被災地への変わらない思いと、このツアーのために地元でチャリティコンサートを開いたことを話され、「たくさんの人たちの思いがあって、私たちが今ここに来ていることをお伝えしたい」と語ってくださいました。

およそ1時間のコンサート、素晴らしい音楽に会場全体が一つになって耳を傾けていました。またの再会を約束し、音楽隊の皆さんは次なる目的地へ出発されました。

10年の信頼と喜び

オリーブの会 野田和雄

12月27日、オリーブの会は正月用の生け花とビンゴ大会です。恒例の年末行事を、みなさん楽しみに集まってきます。会場の亘理教会は花の香りに満たされます。始めの祈りをするミゲル師は聖堂で祈る被災者をやさしく導いてくれます。

自宅の正月を飾る花だと思うと、皆さんかる気満々です。できた人から、ハイポーズ!

亘理、八木山教会からたくさんの景品 が集まり、ビンゴ大会も盛り上がります。 花や景品を抱えて「今日はお祭りみたい」

と喜ぶ笑顔が輝きます。



東日本大震災から12年を迎えるにあたって思うこと

カリタス南相馬所長 南原 摩利

震災から12年が経ちましたが、福島県浜通りの原発被災地の現状はというとまだまだ復興が進んだとは言えない状況です。それでもこの年月は、住民の方の心の持ちように少しずつ変化をもたらしているようにも感じています。「震災遺構は、津波の映像とかあるからとても行けないよね」と言われていた方が、先日「みんなと一緒だったら行ってみようかな。今なら大丈夫かも」とサロンの皆様と見学に行く予定を組んでいます。心の傷が癒えるための時間の経過は一人一人違いますが、10年以上もの時間経過が必要だったんだなと改めて感じています。

また、カリタス南相馬主催の音楽イベントなどに参加された方から「バイオリンとチェロの優しい音色を聴きながら、この12年間のいろんな思いが浮かんだ。素敵な音色に心が温かくなった」と嬉しい感想をいただきました。今後も住民の方の心に響く支援を継続していければと思っています。



わかちあいから生まれるエネルギー

カリタスみちのく 世話人 大河内 愛

昨年 10 月の世話人会で、南相馬の南原さんから「今の福島を見てほしい」との話がありました。仙台の濱山さんと東京の私とで「日帰りで行ってみようか?」「行ってみよう!」と南相馬へ行くことを決めました。途中、名取市の閖上地区を見学し、津波の映像と対照的な現在ののどかな風景、町の変化を感じ、南相馬へ向かいました。南相馬ではドライブしながら現場の話をたくさん聴きました。夕闇

迫る中、居住区域と帰宅困難区域の違いをより強く感じました。日帰りは意外に 充実していると新鮮な発見でした。対面で話す良さと出掛けていく意義を味わい ました。何よりも「やってみる?」「やってみよう!」という仲間がいて嬉しく思い ました。

カリタスみちのくでは、月に1度、オンラインで世話人会を行なっています。最近の世話人会では現場で「こういう時、みなさんはどうしていますか?」と質問が出ます。各カリタスの活動は違いますが、各自の体験をわかちあい、活動報告に留まらず、現場ですぐに役立つ、生きたわかちあいになっています。



コロナ禍や支援対象の高齢化により、活動が難しいことばかり目につきますが、難しい時にも同じように歩む仲間の姿がカリタスみちのくにはあります。「これはどう?」とアイデアがあると「今、これはできないけれど、これくらいはできそう」とわかちあえます。

継続は力なりで、毎月の世話人会でのフレッシュなわかちあいが確実にカリタスみちのくの実行力になっているとこの 1 年で感じています。



2022 年 9 月こころなないろ 3 号の発送作業のため大船渡ベースに集合 偶然にもこの日来られたハルノコー神父様(淳心会・後列右端)と一緒に

みちのく掲示板

カリタスみちのくでつながりましょう

カリタスみちのくは、メーリングリスト、Facebook ページ、Web サイトで情報発信を行っています。隔月で、現在活動をしているカリタスベースの状況を紹介しているほか、随時さまざまな企画や被災地の情報をお伝えしています。また、年に3回、「カリタスみちのくの集い」を開催し、全国の皆さんと情報交換と分かち合いを行っています。カリタスみちのくが立ち上がってからの2年はコロナ禍で、オンラインでのつながりに限られていましたが、今後は少しずつ対面の機会を作っていけたらと思います。

カリタスみちのくの Web サイトはこちら→ カリタスみちのくからのお知らせのほか、カリタ スベースの情報もまとめています。 ぜひご覧ください!

メーリングリスト登録をご希望の方は、 カリタスみちのく cmichinoku@gmail.com へご連絡ください。



ご支援のお願い

カリタスみちのくでは、活動継続のため皆様からのご支援を受け付けています。どうぞよろしくお願いいたします。

口座名称 カリタスみちのく ゆうちょ銀行〇一九(ゼロイチキュウ)店 当座0636160 郵便振替口座 口座番号 00180-3-636160